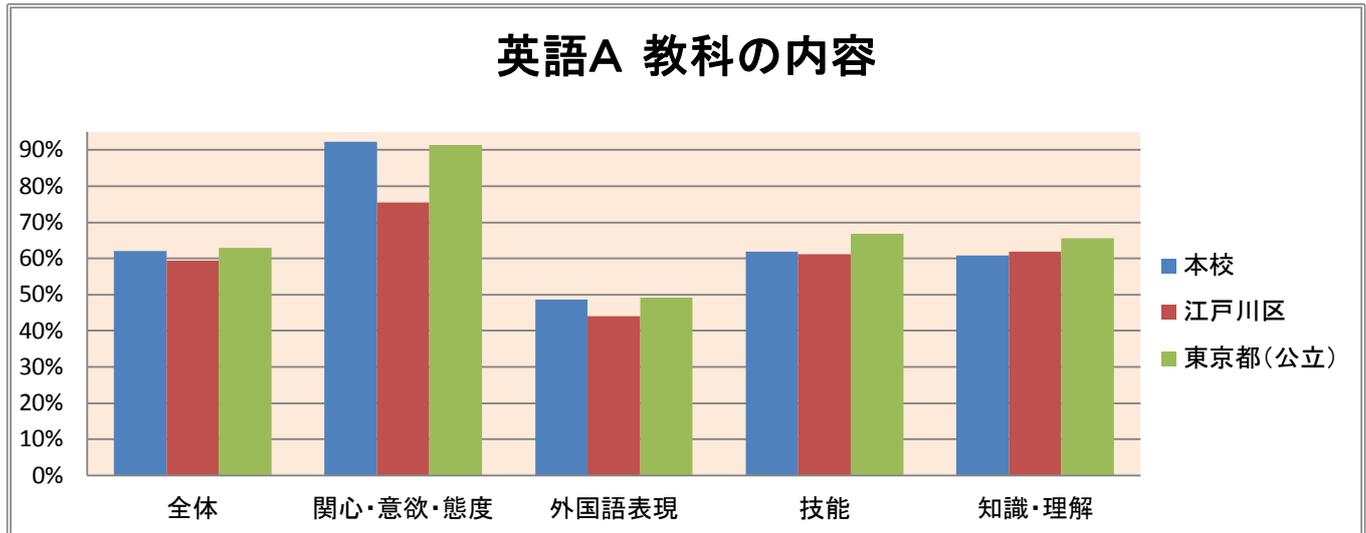


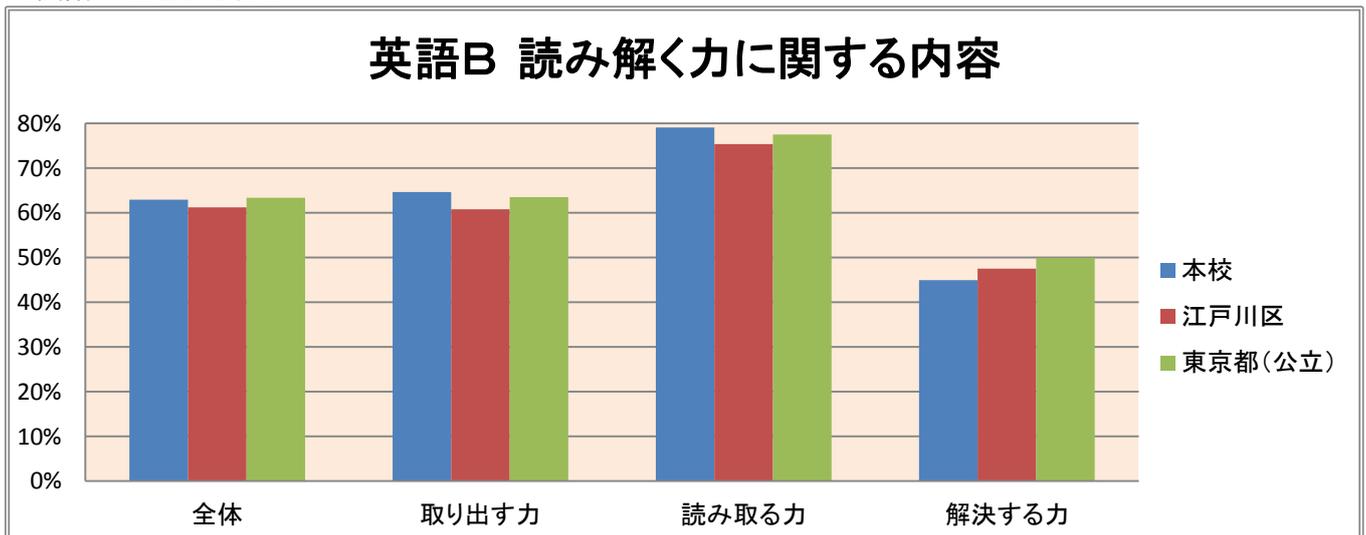
## 1. 分類ごとの平均正答率

## (1)英語A:教科の内容



英語A（教科の内容）に関しては、関心・意欲・態度は区や都の平均を上回っているものの、全体としては都の平均を下回る結果となった。スプリングコンテストやセンテンスコンテストを始めとする基本事項の徹底に力を入れ、パフォーマンステストなどの表現活動に取り組んだことが結果につながったと考えられる。東京都の結果を上回るためには、学んだ事項を更に徹底し、うまく活用していかなければならない。今後応用力を身につけさせる必要がある。

## (2)英語B:主として活用



解決する力が区・都の平均を下回っている。日頃から問題をしっかり捉え、自らの力で考え解決しようとする意欲が低い結果である。1人で集中して学習する時間を確保し、英文の背景や、登場人物の心情等読み取ることを養っていく必要がある。

## 2. 今後の生活に活かすポイント（正答率が低かった問題）

英語A 教科の内容は区の平均を上回ったものの、都の平均を下回る結果となった。また、英語B 読み解く力に関する内容では、「取り出す力」と「読み取る力」は区・都の平均を上回ったものの、「解決する力」が区・都の平均を下回る結果となった。授業でも様子を見ている限り、大多数の生徒がまじめに取り組んでいるので、基礎的知識は定着していると思われる。しかし、集中力が欠けてしまったり、最後まで問題を解き抜くことを怠ったりする場面が見られるので、最後まで集中してやり抜くことを指導していきたい。その中で、「教科の内容」「読み解く力に関する内容」の数値が都の平均を上回ることができるよう、基礎的知識の更なる定着をはかる。